

日	月	火	水	木	金	土
24	25	26	27	28	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

3月10日(日)  
旧暦1月29日 大安

発行所: (郵便番号890-8603)  
鹿児島市与次郎1丁目9番33号  
**南日本新聞社**  
電話 099-813局  
社会部 5124 政経部 5116  
文化部 5136 運動部 5151  
地域報道部 5144 写真部 5155  
ウェブ部 5172 論説委 5101  
ひろば・読者室 5110  
NIE支援・読者センター 5004  
フォトサービス 5003  
広告営業本部 5063  
販売推進本部 5040  
事業本部 5052  
経営企画局 5030  
総合受付 5001

# 南日本新聞



継いでいくもの。

自分自身であれ。本質は語らずとも伝わる。

森元 辰巳(父 61歳)・健二郎(息子 31歳) 千日町 辰巳亭

小正醸造株式会社 www.komasa.co.jp お酒は二十歳になってから

## 主な紙面

### 「いぶたま」開業2年

JR九州・指宿枕崎線の観光特急「指宿のたまて箱(いぶたま)」は12日、開業2年を迎える。乗車率は異例の高水準で推移。指宿市は2013年度、広域観光を進め、リピーターの確保や新規観光客の発掘に力を入れる。

## 南日本こども新聞 23 24

総合 来鹿の民主・馬淵氏に聞く 2

総合 新出生前診断4月開始 3

社会 藩校サミット鹿児島大会 28

社会 鹿児島本土 初の夏日 29

社説 大震災2年 5

## 敬 EnterTainment

次代担う才能に希望  
米アカデミー賞報告 10

くらし  
カレンダー(気象) 7  
囲碁、将棋 22  
ご不幸広告 13  
なんにち求人 099(223)9555

## ミナミさんのクイズ

社会編 1853年にペリーが乗って日本に来た軍艦は?  
①トリニダー号  
②サンタマリア号  
③サスケハナ号  
※どこかのページにこたえがあるよ。

# 桜島大噴火 湾岸事業所アンケート

## 防災地図 6割知らず

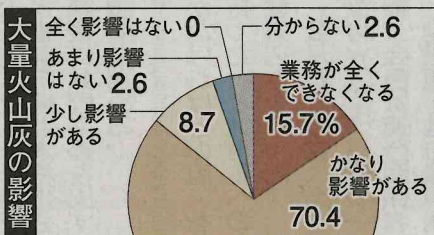
1914年の桜島大正噴火では、桜島島外でも、大量の軽石・火山灰が降り、M7.1の直下地震、津波、地盤沈下、土石流などの災害が複合的に起きて

「あまり影響はない」通信網のまひによる「事業、生産停止」「出勤困難」「医療への影響」を懸念する意見が目立った。「少し影響がある」は8.7%、

戦後最悪の災害となった東日本大震災は11日発生から2年を迎える。壊滅的な津波被害を受けた沿岸では今も行方不明者の捜索が

警察庁によると、8日現在の死者は1万5881人、行方不明者2668人。長引く避難生活による体調悪化や自殺など亡くなった震災関連死者も2303人になる。復興庁に

鹿児島大学地域防災教育研究センターと南日本新聞が桜島を取り囲む鹿児島湾沿岸部の事業所を中心に行った桜島大噴火に関するアンケートで、大噴火時に大量の火山灰・軽石が降った場合、事業活動に大きな影響が出ると回答した事業所が86%に上った。火山災害の防災マニュアルを作成している事業所は13%にとどまり、影響を心配する一方で、具体的な備えは進んでいないことが分かった。(16、17面に特集、調査結果詳報)



- 行政への主な意見・要望
- ・対岸の鹿児島市街地側での大噴火対策講習会
  - ・企業向けの防災マニュアルの作成と配布
  - ・災害防止設備の助成
  - ・エリア(方向)ごとに時系列の具体的な対応策提示
  - ・噴火の予知速報
  - ・事業所降灰の無料引き取り
  - ・噴火予知の向上
  - ・火山灰処理など噴火後の迅速対応
  - ・被害情報の迅速な発信
  - ・いけず避難のための航路確保
  - ・被災規模の想定
  - ・交通、情報伝達手段の確保
  - ・農業の降灰対策
  - ・避難道路・避難先の整備
  - ・県や市が対策をしているのか疑問
  - ・患者の移転先確保のための窓口一本化
  - ・備えをするための十分で正確な情報
  - ・道路障害にすぐ対応できる体制づくり

# 火山灰「影響大」86%

## 交通網まひ

## 農作物被害

## 医療に支障

前に、大噴火への関心の高まりがうかがえる。

防災マニュアルに関する質問では、火山災害用がない事業所のうち、81%が作成の予定がなかった。「例を示してほしい」という行政への要望が多く、複合性が特徴の火山災害にどう対応していいか迷っている可能性がある。



鹿児島市電の車体にシロクマと黒豚の顔をデザインした「白くま黒豚電車」の運行が9日始まった。同日は同市高麗町の市交

通局で出発式があり、企画した鹿児島国際大生らのグループも出席。「でんでん」の愛称を発表し、「鹿児島島の魅力を伝える新たな名物になってほしい」と街へ向かう電車を見送った。(25面に関連記事)

繁華街を走行する「白くま黒豚電車」＝9日午後0時10分、鹿児島市の高見馬場(写真部・田中公人)